

High ♥ Line Wakabayashi  
**はいらいん若林**

みんなでここさ

入らいん!



若林区まちづくり協議会会報

2000.05.15 Vol.

1



▲4月16日、陸奥国分寺薬師堂で行われた「桜まつり」(若林区連合商店会主催)

会報の愛称は  
**「はいらいん若林」**

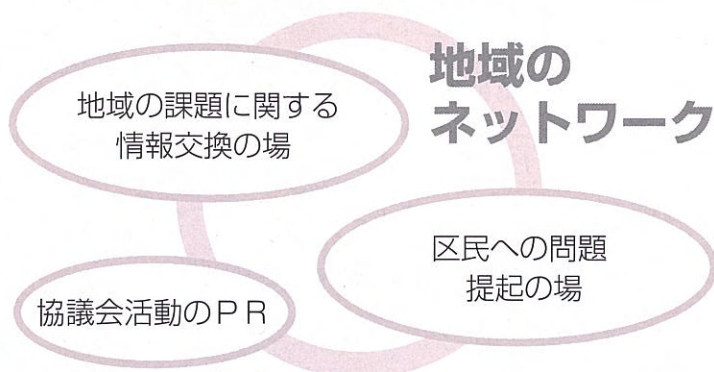
仙台弁の「入らいん(お入りください)」に英語の high(ハイ・高い)と line(ライン・路線、進路、などの意) とをかさねあわせた造語です。温かさより高いレベルをめざそうという気持ちが込められています。

**若林区まちづくり協議会が新しくスタート**

「新しい杜の都づくり若林区協議会」は平成12年4月より「若林区まちづくり協議会」として新たなスタートを切りました。この協議会は、区民一人ひとりの創意と参加により、住みよい魅力のあるまち若林区をめざし、行政との協働によるまちづくりを目的としています。

地域の活性化、環境問題、健康増進と青少年の健全育成、高齢化問題など、魅力あるまちづくりを進めるためのテーマに沿った検討を行い、地域一体となった課題解決に取り組みます。

■ **はいらいん若林の役割**



ひめいさし

若林区まちづくり  
 協議会会長

山田 仁策

新しい杜の都づくり市民協議会が解散となり、各区にのみ組織を残すことになりました。これを機に若林区では検討を重ね「若林区まちづくり協議会」と改称しました。21世紀に向けて若い世代の方々と共に協力し合い、行政のご指導をいただきながら、地域の特性を活か

した施策を取り入れ、若林区の益々の発展と協議会の充実を期して参りたいと存じます。区民の皆様のご健勝とご多幸を祈念申し上げます。若林区まちづくり協議会会報第1号の発刊のご挨拶とさせていただきます。



# 「ゴミ問題」

イベントを通して考える

若林サンドフェスタ実行委員長

亀岡 幸康

昨年の夏、深沼海岸で「若林サンドフェスタ」というイベントを開催し、実行委員会として関わらせていただいた。開催当日は、老若男女、多くの参加者・協力者にご参集いただき、一日中砂浜で楽しい時間を過ごすことができた。

さて、人が集まれば当然のようにゴミが出る。主催者側が出すゴミや、食事をした後、包装物のゴミ、参加者が持ってきた物から出るもの、キリがない。イベントが大きければ大きいほど、人が集まれば集まるほど、ほとんどの場合、たくさんゴミが出る。

私自身、今までもいくつかのイベントに関わる機会があったが、たいいていの場合、業者に委託するしないの違いこそあれ、主催者側で責任をもって後片付けをするのが当たり前なのである。

イベントの多くが、よほど「ゴミについて考える」ことをテーマにしない限り、参加者に「ゴミ問題」を強いることはあまりないだろうと思う。

「若林サンドフェスタ」は、前身の「サンドクラフトコンテスト」の頃から参加者・協力者全員で海浜清掃をするというところでスタートしていたため、「イベントを行うこと」によって、少しでも環境美化に貢献しよう」ということを、やはり開催趣旨の柱とした。つまり、当日集まった人々全員で、ゴミを拾うことで、ゴミ拾いから「海の環境について考えよう」という企画でもあった。

残念なことではあるが、海岸で一つのゴミ袋を一杯にするのに、さほど時間がかからなかった。そ



▲写真はサンドフェスタでの清掃風景

れだけたくさんゴミが落ちていたわけである。

ご存知のように、深沼海岸では地元自治会や小中学校・PTA・老人クラブ、企業ボランティアの方々によって、毎年数回ゴミ絶滅作戦ということで清掃作業が行なわれている。

それでもゴミは減らない。このイベントもたくさんの方々の善意から比べたら、誠に「微力」であるが、それでも「気づき」の場にはなってくれたらどうか。

この「気づき」を、一人一人がイベント会場から家に持ち帰り、家族や友人やたくさんの方々に伝えることができ、実践できたとき、私たちの「まち」は「魅力あるまち」になるのではないだろうか。是非イベントは、単に「はしゃぐ」「楽しむ場」を提供するだけばかりではなく、「せつかく集まったのだから、一緒に考えようよ」という「思いを伝える場」として活用してもらいたい。

仙台市が「ポイ捨て条例」を施行して、まもなく一年になる。本来ならば、「あたりまえ」のモラルであるが、条例化してまで取り組まなければならない悲しい現実がある。

私たちには、次世代に少しでも良い環境を残す義務がある。ゴミ問題を考えることは、誰もが簡単にできる「まちづくり」である。

そのためには、ほんの少しでも、できることから始めて行きたいと思っている。私たちが「まち」の中の主役であって、観客ではないのだから。

## ●若林区まちづくり協議会総会のお知らせ●

日時：平成12年5月25日(木) 午後2時30分～ 会場：若林区文化センター展示ホール

### 会報プロジェクトメンバー

リーダー 勝又久雄  
猪俣典子  
小野寺民枝  
西條芳郎

### 編集後記

▼2000年を迎えました今年、会報も『はいらん若林』として生まれ変わりました。生活しやすくなり内容を高めることと仙台弁の「お入りください」をかけております。より親しみやすい紙面を心がけてまいりたいと思いますが、「魅力あるまちづくり」のために紙面を飾るためには区民の皆様からの情報・アイデアが必須です。ぜひおたよりをおよせください。

▼前回の特集に関連して、上飯田のS・Tさんから社会学級の思い出などについておたよりをいただきました。ありがとうございます。

地域のために  
がんばっています

## わが消防団の活動

若林消防団副団長 安海映一

かつて、消防団員になることは、地域社会で一人前と認められることでした。人々の生命財産を守る役割を担っていたからです。

現在、消防団の多くが団員不足に悩んでいます。仙台市では消防団を活性化し組織の強化拡大を図るため平成9年5月に女性消防団員を初めて採用しました。当初35名でスタートした女性消防団員はそれぞれの消防団に入団従事しており、現在では70名と輪を広げ、今後ますます活躍が期待されるところです。

さて、私たちの若林消防団は連坊、南小泉、南材、六郷、七郷(5分団)からなり団長以下390名(定員は400名)は「安心して暮らせるまちづくり」のために一致協力し、ボランティア精神で、無災害に向けてがんばっています。消防、水防、風災害、また、高齢者の救命救助の訓練、教育、教養の研修を行い、あらゆる災害に対応でき、安全確保のためにますます充実した消防団になってまいります。

今、地域住民の皆様一人一人の防災への意識、協力体制などを考えるべき時期にきていると思われれます。「地域は自分で守る」の心構えを忘れずにみんなで歩んでいきましょう。

(今回は消防団についての特集です)